

伝統文化を後生に

6/12 かしわ餅作り

飯館村文化財愛好会（嶋原忠夫会長）が民家園（深谷）でかしわ餅作りとしようぶ挿しを行いました。かしわ餅作りとしようぶ挿しは、旧暦の5月の節句に行われていたことから、伝統の行事を後世に伝えようと同愛好会が毎年この時期に合わせて行っています。



米粉を蒸して作られた出来たてのかしわ餅は独特の風味があり、村内で採ったしようぶ、よもぎの緑が民家園の萱屋根に映えていました。会員は、「村の伝統行事を後世に伝えて行きたい」と和やかに行事を楽しんでいました。



▲▲▼しよぶ挿しの作りかた（写真上）、かしわ餅作りとしようぶ挿し（写真左）と完成したかしわ餅（写真下）



こころのぽけっと

子どもは親の何を見て育つ？

よく聞く言葉に「子どもは、親の背を見て育つ」という言葉があります。日本がまだ貧しかった頃、大人たちは豊かな暮らしを夢見て毎日懸命に働きました。

したがって、そのような親の生き方や大人の姿は、子どもにとって大いに参考になったわけです。大人たちが懸命に働いた結果、世の中は多くの方の努力によって、何でも手に入る豊かな時代になりました。

私たちが子どもの頃は塩を片手に持ってスカンポを食べた経験があるので、今の世の中にくらぶと不満があっても、あの時代よりはまだまだマシ」との思いが胸をよぎります。

しかし、今の子どもたちは、この豊かな世の中が当たり前であって、不便や不

足を不満と感じる抵抗性の少ない人間になってしまいました。まして現代は、大人が自分自身を失い迷っている時代ですから、「子どもは親の背を見て育つ」という言葉には何の意味も持たなくなってきたような気がしてなりません。

おそらくこれからは「背を見て育つ」のではなく、「親が子どもと正面を向いて付き合う時代」のようです。そしてその第一歩が「コミュニケーション」でありましょう。

これまでの日本は、次の世代を育てるということこそをさほど真剣に考えてきませんでした。これからはこのことに本気で取り組んでいかなければならないものと考えます。

今年、「国民読書年」です。村には村営の本屋もあります。何もしない手はありません。本を使って親子がコミュニケーションをとれる場を増やしてみようと思っています。いざれお知らせします。ふるってご参加を。

平成22年6月22日  
飯館村長 菅野 典雄

6/9 ヤマメ稚魚の体験放流を実施

飯館小学校と白石小学校でヤマメ稚魚の体験放流が行われました。この体験放流は、新田川・大田川漁業協同組合（湊清一代代表理事組合長）の主催で毎年行われています。

白石小学校（武山弘校長）では、全校児童が3〜4センチメートルに育ったヤマメの稚魚約1200匹を新田川に放流しました。放流後、湊組合長から児童に向けて、川に魚が住みにくくなっている現状や水資源を守るためにも



▲稚魚放流体験のようす（白石小）

きれいな水を守る気持ちを持ってほしいとの講話がありました。武山校長は、「大人になったときに今日体験した川の色や草の香りを思い出してほしい」と話していました。

みんな お弁当上手につくれたかな？

5/28 村内学校で「子どもが作るお弁当の日」

4年目を迎えた「お弁当の日」が村内の幼稚園、小中学校で行われました。

「お弁当の日」は、小中学生は自分でお弁当を作ること、幼稚園児はお弁当を作る手伝いをするを目標としています。また、「お弁当の日」を通して食べ物に感謝する心を身に付けることや家族の会話を増やすことなどもねらいとしています。

子どもたちは、持参したお弁当をおいしそうにほおばっていました。



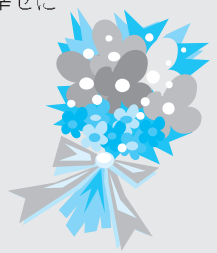
▲お弁当を食べる子どもたち（草野小）

誕生おめでとう

赤ちゃんのなまえ 親の氏名 行政区  
菅野 祥希ちゃん 英行・優 佐 須  
佐藤 晃陽くん 明宏・瑛美 関根・松塚  
すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

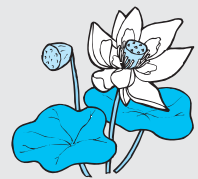
氏名 行政区  
深須 高 大 高 菅 上 飯 樋  
見 藤 橋 大 高 菅 比 比 曾  
和 恵 秀 弘 美 喜 英 智 子 上 比 比 曾  
いつまでもお幸せに



おくやみ

氏名 年齢 行政区  
渡 邊 岩 喜 79 飯 樋 町  
ご冥福をお祈り申し上げます

（5月21日から6月20日までに届け出のあったものを掲載）  
※この欄に掲載を希望しない方は、届出のときに住民係へ申し出て下さい。



ひとのうごき

（平成22年6月1日現在）

人口	今月（前月比）	昨年同期
男	3091人 (+1人)	3148人
女	3074人 (+6人)	3170人
計	6165人 (+7人)	6318人
世帯数	1708戸 (+1戸)	1734戸

◆◆5月1日～31までの人口動態◆◆  
転入 23人 転出 17人  
出生 4人 死亡 3人

（平成17年国勢調査に基づき増減された現住人口）

お詫びと訂正 広報いいたて6月号18ページで農業功労表彰受賞者は菅野博さんの誤りでした。お詫びして訂正いたします。